

災害に備え地域の絆を深める

—花咲港地区住民防災訓練11/11—



一時避難所から花咲港小学校に向かう地域住民

北海道の津波浸水予測をもとにした自主防災訓練が、花咲港4町会で組織する花咲港町会連絡協議会主催で初めて実施され、地域住民約200人が参加しました。

今回の訓練は、高台に住む地域住民が中心となって避難所を開設し、避難してくる沿岸に住む地域住民の受入体制をつくることを目的に実施。参加者は、大規模災害発生時に行政の手が届くまでに時間を要することを念頭に、住民の手で避難所開

設を行うことを想定して行われました。

訓練は大津波警報の発令を受け、防災行政無線と広報車による避難指示から開始され、地域住民は徒歩や自動車での避難ルートを確認しながら町会で決めた一時避難場所に集合した後、指定避難所である花咲港小学校へ避難しました。

避難所では市の職員の指導のもと、避難所内にある備蓄品の保管場所と発電機の使い方を確認後、2班に分かれて備蓄食糧の炊き出し訓練と救急訓練を体験。

また、屋外では地域の消防団の手による消火訓練も行われ、



備蓄食糧の試食をする親子

参加者は周囲や地域と互いに助け合う「共助」を学びました。

今回の訓練を総評して花咲港町会連絡協議会の重永会長は「比較的スムーズな避難を行うことができた。より高い場所へ避難する意識を徹底させ、地域の防災力を高めたい。」と話し、さらなる防災意識の向上を誓いました。



保管場所から備蓄品を運び出す参加者



樽床内閣府特命担当大臣北方領土視察

11/4

樽床伸二内閣府特命担当大臣（沖繩及び北方対策）が、北方領土視察のため根室を訪れました。

樽床大臣は、長谷川市長の案内で納沙布岬からの視察を行った後、北方四島交流船「えとぴりか」に大臣として初めて乗船し、洋上から国後島を望みました。

また、北方四島交流センターで行われた元島民や返還運動関係者との懇談会では、会場からの要望や元島民からの悲痛的な声に真剣に耳を傾け、「領土問題について数十年にわたり同じ要望を繰り返してきた関係者や元島民の気持ちを、首相に強く報告したい。」と、決意が示されました。

市民の挑戦意欲とスポーツに対する意識の高揚を図ることを目的に実施している「ねむるギネスに挑戦！記録会」が、花咲港金刀比羅神社で開かれました。

小学5年生から大人まで35人の参加者は、花咲港金刀比羅神社の境内へ続く120段ある大階段の駆け上がり挑戦。参加者は時折苦しそうなお顔を浮かべながらも階段を勢よく駆け上がり、健脚を競いました。

記録会の後半はあいにくの雨に見舞われましたが、学年・男女別など10部門のうち8部門で新記録が誕生し、参加者は心地よい疲れと達成感を味わっていました。



つべん目指して駆けあがれ！
—「ねむるギネス」に挑戦！記録会11/10—